

講演者ご紹介



木下 政人 京都大学大学院農学研究科助教

ゲノム編集研究の第一人者。
ゲノム編集技術等を駆使して、基礎研究から創薬事業、養殖業などの応用研究まで幅広い研究を実施。
近年では、筋肉量が増加したマダイ等を開発。



野崎 貴裕 慶應義塾大学理工学部システムデザイン工学科助教

人間の動作情報を活用した農業用ロボットの開発に従事。農林水産省リアルハプティクス応用農作業機器研究開発プラットフォーム研究代表者。『CEATEC AWARD 2016 審査員特別賞』受賞。



川崎 智資 イワフジ工業株式会社開発担当取締役

林業機械の専門メーカーとして、約70年にわたり最新鋭機を世に送り出してきたイワフジ工業（株）において、最新機械の開発等を担当。
同社が2017年に開発した機械は、林業機械で初めて『GOOD DESIGN賞』受賞。



水留 良一 上士別IT農業研究会会長、水留農場代表

北海道上士別で独自ブランド「米侍士～こめざむらい～」を販売。「上士別IT農業研究会」は、平成24年3月に、上士別町の20代から50代の農家や後継者10名により設立。農作業のロボット化の導入を促進。



山端 直人 兵庫県立大学自然・環境化学研究所教授

農山村の問題解決のため、鳥獣害を軽減できる社会モデルの育成や、地域が主体的に被害対策を持続できる仕組みづくりを研究。新技術の開発やアクションリサーチの手法を用いた現場実証を実施。

菱沼 義久 農林水産省農林水産技術会議事務局研究総務官

農林水産技術会議委員ご紹介



小林 芳雄 (会長)

一般財団法人大日本蚕糸会会頭
元農林水産事務次官



川面 克行 アサヒグループホールディングス株式会社社友

民間企業の研究開発部門での経験から、コストとベネフィットを勘案した数値目標を定めた研究開発マネジメントに精通。

(社)経団連農業活性化委員、同委員会農商工連携部会会長及び同企画部会長を歴任。



古口 達也 栃木県茂木町長

中山間地で「儲かる町」実現のため、道の駅事業、有機農業（生ゴミを含む堆肥センター）地元木材による施設建設等、福祉、文教などの町政全体をリンクさせて取り組む。



坂本 廣子 キッズキッチン協会会長／相愛大学人間発達学部客員教授

幼児期からの食育を40年以上前から提唱し、日本の食育実践の先駆け、NHK教育テレビ「ひとりのできるもん」を監修、子どもからの料理体験を進めた。

食育、介護、防災、食の村おこし、子ども博物館研究など、広く問題解決に取り組む社会派料理研究家。



妹尾 堅一郎 一橋大学大学院商学研究科客員教授
NPO法人産学連携推進機構理事長

内閣知的財産戦略本部専門調査会会長等、多くの委員や企業役員を歴任・兼務。ビジネスモデルと知財マネジメントに関する研究と教育に従事。

著書「技術力で勝る日本がなぜ事業で負けるのか」は流行語にもなった。



難波 成任 東京大学名誉教授

ファイトプラズマや植物ウイルスについて、全ゲノム解読や病原性遺伝子・抵抗性遺伝子・宿主特異性決定機構等の解明に世界に先駆け成功。

日本で初めて植物病院を設置するなど最先端の研究成果を現場に活かす取組を実践。

平成29年第107回日本学士院賞受賞。



松永 和紀 科学ジャーナリスト

食品にからむ多岐にわたる情報について、科学的根拠に基づいて分かりやすい発信に取り組む著書「メディア・バイアス あやしい健康情報とニセ科学」で科学ジャーナリスト賞受賞。